

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No54～

平成 30 年

3 月号



一般社団法人日本書字文化協会機関紙
編集長 渡邊啓子

一般社団法人日本書字文化協会

代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 中野区中野 2-11-6 丸由ビル 301

電話 03 - 6304 - 8212 FAX03 - 6304 - 8213

E メール info@syobunkyo.org



目次

第 7 回総合大会実施要項発表・総合大会の特色	2
手本揮毫・大平恵理プロフィール	3
手本、評価の観点の見本	3
高校学習指導要領改訂緒について	4
コラム「こころ」	5
第 7 回総合大会実施要項	6
コラム「教学半」	10

第7回総合大会実施要項発表

出品・参加料を値下げしました

書文協はこのほど第7回全国書写書道総合大会の実施要項を決定しました(実施要項は6-9ページに掲載、ホームページにも)。今回は多くの方が大会に参加しやすくするため、学生展、硬筆コンクール出品料を値下げ(団体)、特に席書の普及のため席書参加料は大幅値下げしました。

総合大会の特色

特色1 指定課題、参考手本があります

「ひらがな・かきかたコンクール」「全国硬筆コンクール」「全国学生書写書道展」とも指定課題で、3月末、書文協ホームページに掲載します。ダウンロードして自由に使えます。印刷手本も販売されます。

特色2 「評価の観点」が発表されます

書文協では、「止め、はね、払い」など文字を書く上で身に付けて欲しいルールを50項目の「評価の観点」に分けました。検定試験ではこれが守られているか、順を追ってチェックしています。大会では指定課題に沿ってこの観点をワンポイントで明示した「評価の観点」をホームページで公表します(3ページに手本、評価の観点のサンプルを掲載)。審査ではどこがチェックされるのかを明示するものでもあり、大会参加が書の具体的学びに直結します。個人応募者はもちろん、各教室でも大会応募の補助資料となるでしょう。

特色3、全国規模の腕試し・・・権威ある審査委員が厳正に

大会の命は審査です。書文協中央審査委員は書写書道教育の権威者ぞろい(ホームページに委員一覧表)。流派を超えた公正な審査が行われます。

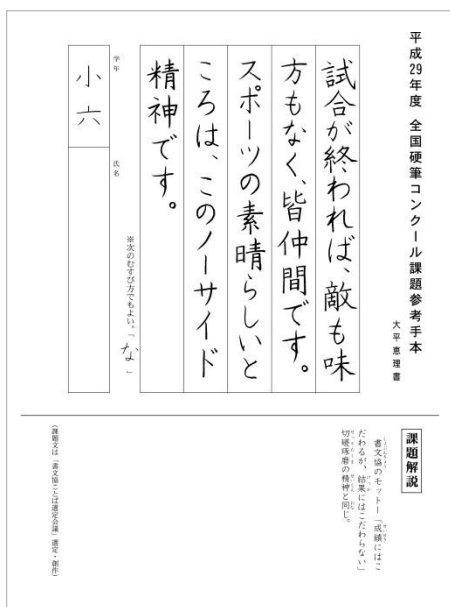
特色4、園・学校・地元自治体・教委顕彰の充実

書に傾けた努力ができるだけ多く褒められるように、優秀作品の一部については出品者の園・学校あてに連絡、また地元自治体、教育委員会に連絡します。顕彰規定は様々ですが、校長先生のお話など、何らかの形で受賞者が顕彰される機会となることを願っています。

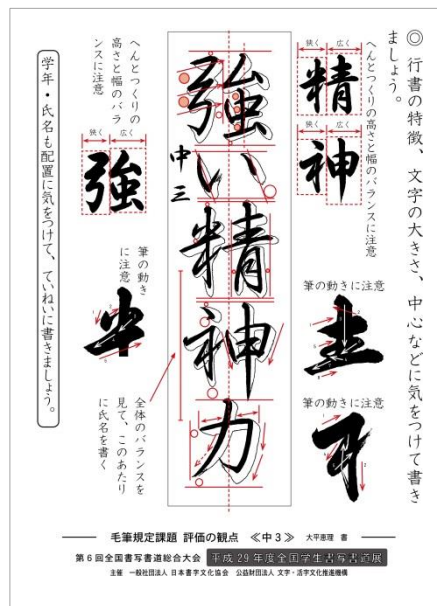
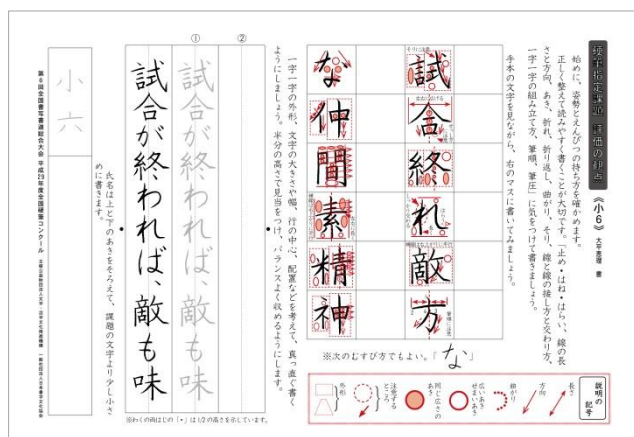
手本揮毫の大平恵理プロフィール

氷田光風氏らに師事。書写の実用性と書道の審美を併せ持つ 平明で美しい書風は、専門家らから「用美一体を極めた文字」として評価されています。早くから、全国書写書道大会の毛筆・硬筆お手本や検定試験手本の揮毫を担ってきました。一般社団法人日本書字文化協会代表理事・会長。主な市販著書にいずれも硬筆練習帳の次の4冊があります。幼稚園・保育園児ら幼児を対象とした「はじめての えんぴつ れんしゅうちょう」(KADOKAWA角川書店)、小・中学生向けの「ドラえもん面白学習シリーズ、きれいな字が書ける」(小学館)、成人向けの「脳活ペン文字練習帳、同実用編」(朝日新聞出版)。2018年3月には「ことばであそぶ ひらがな練習帳」(朝日新聞出版)が刊行される予定です。

参考手本サンプル (前回大会から)



「評価の観点」サンプル (同)



高校学習指導要領改訂

高校でも硬筆書写盛んに

小・中国語科書写の高校延伸

文部科学省は2月14日、高校学習指導要領（平成21年3月告示）の改訂案を発表しました。平成34年4月から実施されます。改訂案によりますと、現在の国語科必修科目「国語総合」（4単位）はなくなり「現代国語」（2単位）と「言語文化」（同）が必修科目となります。この双方及び芸術科の「書道Ⅰ」について「中学校国語科書写との関連を図る」ことが明示され、また書道Ⅰでは「硬筆も取り上げるように配慮」を求めました。改訂前から予測されていた「書写の高校延伸」が図られたこと、硬筆の重視が注目されそうです。

書写については、国語科必修教科で「中学校国語科書写との関連を図り、効果的に文字を書く機会を設けること」としました。書道Ⅰでは中学校国語科書写だけでなく高校国語科との関連を図る、ことを求めるとともに「学習の成果を生活に生かす視点から、目的や用途に応じて、硬筆も取り上げるよう配慮する」としました。

「より詳しく解説を」文科省にパブリックコメントへ

これまで書写と芸術科書道の関連が希薄だったことから、実際の学習活動を組み立てるのは困難と思われます。このため書文協は文部科学省に「指導要領にもう少し言葉を足し、指導解説書で懇切に方法論を教示してほしい」とのパブリックコメントを提出する方針です。

加藤東陽・書文協中央審査委員長の話

全ての教科について中学と高校教育の一体化を図るのが今回の指導要領改訂の狙いのように、書写教育に関して中学と高校の「のりしろ」がきちんと付けられたということは画期的なことだと思います。（中学と高校を結ぶ）パイプは硬筆ですが、教科間、毛筆と硬筆でダブって教えることは避けなくてはけません。書写全体の調整が図られるわけですが、何を教えるか、解説書で詳しく書かれることを期待します。

「

」

ろ

大平 恵理(書文協会会長)

「真摯」ということ



「自分を表現する言葉があれば、3つ挙げてください」と問われた小平奈緒選手は、こう答えました。「求道者、情熱、真摯です」。ピョンチャン五輪のスピードスケート女子500メートルで金メダルを獲得して一夜明けた記者会見。私はこれを聞いて、真摯(しんし)という言葉は、書写書道を学ぶ私たちもぜひ噛みしめたい言葉だと思いました。

このとき話題となったのは、韓国選手との友情でした。氷上の女王と言われる相手を僅差で降した小平選手は、泣きじゃくる彼女の肩を抱いてウイニングランしたのでした。しかし、頂点を極めるまでに死にもの狂いの練習をした二人だからこそ生まれたシーンだと思いました。何年越し、そして極限まで取り組んだ人から出た「真摯」という言葉にとっても重さを感じます。

真摯とは、辞書によると「まじめ」「ねっしん」という意味です。摯は中学校で習う常用漢字。字の作りは、上部は幸いの右が丸、それを手が受けています。辞書によると第一の意味は、まこと、まじめ、です。無名に近い選手から一歩一歩上がってきた小平選手を支えたのは、この「真摯」だったように思います。

私が思うには、真摯であることは人の目があるがなかろうが関係ないのだと思います。自分にウソをつかないことが大事です。普段から交流のあるライバルに小平選手は韓国語で声をかけました。「チャレツソ(がんばったね)」。それは辛くて長い練習の道程を切磋琢磨しながら乗り切った自分と彼女に出た心からの言葉だったのでしょう。世界に流れたシーンはこうして生まれました。

字を書くのも常に自分と向き合います。上手いかどうかでなく、その時の心持がそのまま正直に字には現れるのです。私は紙に向かうとき「真摯」という心持が大事だな、と思いきらされるのが度々あるのですが、思い通りにならないことが多くあるのです。

第7回全国書写書道総合大会

＝実施要項＝

1、構成

第7回全国書写書道総合大会構成

平成30年度ひらがな・かきかたコンクール（公募展）

平成30年度全国学生書写書道展（席書の部、公募の部）

平成30年度全国硬筆コンクール（公募展）

注意点

●課題は指定課題のみで自由課題はありません。

●ひらがな・かきかたコンクールは硬筆のみ。

●審査結果通知をより早く、顕彰を充実させるための改正を進めます。

2、目的

学習指導要領に準拠して毛筆、硬筆のバランスの取れた書写書道の普及を目指す。三つの大会を一括実施することによって、書写書道の広がりを実感してもらう。

3、主催

一般社団法人日本書字文化協会、公益財団法人文字・活字文化推進機構

4、後援（予定）

文部科学省 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全日本書写書道教育研究会

5、大会役員（敬称略）

大会会長 大平恵理（日本書字文化協会代表理事、会長）
大会副会長 肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）
大会顧問 鈴木勲（公益社団法人日本弘道会会長、元文化庁長官）
野口芳宏（植草学園大学名誉教授）
大会運営委員長 渡邊啓子（日本書字文化協会副会長）
◇中央審査委員会
顧問 小森茂・蓮池守一
委員長 加藤東陽
副委員長 辻眞智子
委員 青山浩之・加藤泰弘・柴田五郎・長野竹軒・西村佐二・
宮澤正明

6、応募・参加申し込み締め切り

ひら・かきコンクール出品 平成30年7月27日（金）必着
学生展席書の部参加申し込み 平成30年7月13日（金）
学生展公募の部・硬筆コン出品 平成30年9月14日（金）必着

7、賞（申請予定含みます）

個別コンクール賞

特別賞＝文部科学大臣賞、名誉大賞（前回、大臣賞で今回大臣賞候補者）、大賞（大臣賞に匹敵する作品）、審査委員会賞、書文協会賞、

推進機構理事長賞、小・中・高校長会賞、全書研会長賞、各主催・後援団体の賞、教育特別奨励賞

本賞＝優秀特選、特選、金賞、銀賞、銅賞

総合賞（ひらがな・かきかたコンクールを除く）

書字文化大賞（グランプリは文部科学大臣賞）

8、顕彰

- ◆ホームページ上での上位優秀賞受賞者氏名・作品ネット展示は、10月下旬にアップ
- ◆在籍園・学校及び地元自治体に表彰依頼。
- ◆10月下旬から11月初旬ごろ、従来型の表彰式に替えて「優秀作品展示・交流会」を開催（大阪市内予定）。
- ◆団体宛て全審査結果通知
賞状・賞品と同時に審査結果通知書を送ります。作品の記念アルバム（アルバム立付き）、表装の申し込みについても同時に送ります。
ひら・かきコンクールは2段階発表
本賞は8月末発送開始、特別賞は10月下旬
学生展・硬筆コンクール 10月下旬発送開始

9、課題

いずれも指定課題。平成30年3月末、発表予定

10、参考手本発表・評価の観点発表

参考手本は4月中旬、ホームページで発表（ダウンロードして使用可）。
評価の観点は5月末ホームページで発表。

11、印刷手本、応募用紙発売

印刷手本は4月中旬より発売。毛筆はA3判1枚100円、硬筆はB5判原寸大1枚40円。硬筆は共通清書用紙使用1枚10円。送料は希望者負担。申し込み用紙（ホームページの各種用紙ダウンロード欄から）を使用し、書文協本部に申し込んでください。

12、席書大会開催日程

平成30年7月21日（土）～9月2日（日）

13、席書ルールと地区大会開催費

席書ルール

<学生展>制限時間は25分。書文協の朱印が押された用紙2枚に、手本を見ずに書き、自分の判断で良い方を提出します。

審査

席書は全国各地で決勝分散地区大会を開催、全作品を書文協本部に集めて、中央審査委員による中央審査会で審査されます。

地区責任者は中央審査会専門委員として任命されます。中央審査会（平成30年9月22日土曜日）については別途ご連絡します。地区大会会場は、書文協に開催申請を出していただき、書文協が承認した場合に席書決勝地区大会として開催できます。

地区大会開催費補助

席書普及のため改革を進めています。開催費補助については追って発表します。

14、出品料・参加費（1点当たり、消費税8%込み）、作品規定

※席書の部同様に公募の部も課題は指定課題のみで自由課題はありません。

個別コンクール名称	参加資格	部門	点数	席書参加費、及び公募出品料			用紙 (縦長使用)	署名
				団体		個人		
ひらがな・かきかたコンクール	年少～小3	公募	1点	年少～小3	540円	1620円	硬筆共通清書用紙	【幼児】 氏名。名前だけでもよい。
全国硬筆コンクール	年齢不問	公募	書体が違えば中学生は2点まで。高校生以上は3点まで。小学生以下は1点	中学生以下	540円	1,620円		
				高校生以上	864円			
全国学生書写書道展	幼年～大学	席書	1点	中学生以下	864円	1,836円	八ツ切	【高校・大学・一般(硬筆コンのみ)】作品に応じて署名。落款印のみは不可。
				高校生大学生	1,080円		半切	
		公募	用紙が違えば3点まで	中学生以下	648円	1,620円	① 半紙 ② 八ツ切 ③ 半切 ④ 地域指定用紙	
				高校生以上	864円			

※団体応募は、複数人数で出品(参加)する指導者がいる場合を言います。結果連絡、賞状・賞品伝達等は指導者を通じて行います。出品・人数は、総合大会全体の合計数です。

15、出品に当たり

書文協では全国書字検定試験、ライセンス試験、全国書写書道大会、講習会等における**事前参加登録制**を実施しています。

大会参加予定者について必要事項を事前登録用紙に書いて書文協本部に送れば出品券が発行されます。出品券は毛筆作品の出品票(作品の右下に

貼ります)の所定の欄に、硬筆作品の場合は**硬筆共通清書用紙**(検定、大会共通)の所定欄に貼って応募して下さい。出品目録は不要で、出品事務が省力化されます。

応募の際は、**応募総括用紙**、**応募明細用紙**に必要事項を記入して作品に添えて本部宛お送りください。参考手本、硬筆共通清書用紙、応募総括用紙、応募明細用紙、個人別事前参加登録用紙等が必要な場合は、**参加予定等申込書**にて学年別人数などを明記の上、本部まで郵送あるいはFAXでお求めください。

こうした用紙はホームページからもダウンロードできますが、参加予定等申込書が必要な方は、電話あるいはEメールなどで書文協本部大会事務局までご連絡ください。

16、審査(略)ホームページをご覧ください

17、印字

大会は全ての出品者に賞状が授与されますが、賞状の受賞者氏名を印字できます。1人30円を添えてお申込み下さい。

18、割引・・・団体審査割引、会員割引

出品・参加は誰でもできますが、書文協会員の場合は会員割引があります。これは、出品における事務作業等の費用として行われるものです。書文協会員規則により、個人会員、団体会員Aは5%、団体会員Bは10%、団体会員Cは15%が割引かれます。会員制度の詳細はお問い合わせください。団体審査(一審)を行った場合は出品料から5%引かれます。

19、園・学校特典

幼稚園・保育園、学校については出品・参加によって学校会員と認定され10%割引かれます。また、参加児童生徒1人につき手本と硬筆共通清書用紙2枚は無料です。送料はご負担ください。

辻眞智子先生が国立で個展

書文協中央審査委員会の副委員長を務める辻眞智子先生が下記の通り、個展を開きます。ご自分の社中展の中でコーナーを設けて個展を開くもので、会期中は辻先生は会場におられる予定です。

記

第8回春葉舎書真会展

平成30年3月15日から20日、11時から18時まで(最終日は15時まで)

コート・ギャラリー国立(国立市中1-8-32)のギャラリー1・2

教

学

半

教えるは学の半ばなり（書経から）

池田 圭子（書文協教学参与）

確実に身につけてき嬉しい



2月になって、北山幼稚園の指導も折り返しにかかってきました。月2回、一人20分の練習ですが、幼稚園の行事優先でスケジュールが組まれている為、間隔が空く時は、3週間、4週間とあいてしまうこともあります。そんな時は、「先生久しぶりー」、「なつかしー」などと声をかけられることもあります。それでも立って挨拶をした後に着席する時には、お腹と背中にグーを入れて座ります。

また、幼稚園の机は、長さがないため、お手本が左に置くことが出来ません。その為、水書きする前に必ずお手本のコピーを手でなぞるのですが、私が「はい、左手で紙を押さえて」と言うと、右手は文字の上に親指が見えるようにそっと置いています。

このように、短い時間の中でも園児さんには、こちらがして欲しいと思っていることが、確実に身につけていっているのが、大変嬉しく思います。年中さんといえども、同じことを順序立てて繰り返し根気よくやっていくことが、大切なことだと実感しています。

文字に関しても、頭書から書き続けている「一」の線がかなり上手に書けるようになってきました。7月の展示会に向けての課題も、「こい」「こと」「こし」と決まり、水書きでの一字一字の練習が始まりました。5月からの墨書きでの練習に向かって、<筆に水をつけすぎないように>を指導のポイントにして園児さんたちの意識を高めながらやっていきたいと思っています。

（編集部注）書文協では「園児にも日本の伝統文化の毛筆に触れさせたい」という学校法人立「北山幼稚園」（山縣迪子園長、東京都府中市）の要請を受け、2015年度から「就学前幼児の毛筆授業の試み」を実施しています。今年度は約100人の年中園児について昨年9月から月2回の正課授業の中でグループ分け指導してきました。年長になった夏に発表会を開く予定です。